

熟練の職人技が求められる解体業に誇りを持ち、日々の努力で関東一のはつり業者を目指す。

高度成長期に建てられた建造物が建て替えの時期を迎え、今後も需要の増加が見込まれる解体業界。2016年には建設業法が改正され、解体工事業が新たな許可業種に制定された。建設業の一翼を担う存在として、社会からの期待を背負う格好となった。そんな流れに乗るよう、業績を伸ばしているのが、千葉県市川市を拠点に総合解体業を営む株式会社DSKである。

木

造や鉄骨、RCなどの家屋から大型建造物までの解体工事を中心に、コンクリートを削ったり切ったりする。はつり、コンクリート杭の上部を除去する杭頭処理、アスベスト除去など、解体に伴うあらゆる工事を請け負う。建物を解体する際には、内装解体から重機を使って壊す最終段階に至るまで、内容によっては専門の職人を手配する必要があるが、そのほとんどを自社でまかなえるのがDSKだと代表取締役会長の佐々木雄太氏はいう。

「はつりにしても、アスベストの除去にしても、特殊な技術が必要で、足場を設置・撤去する職人は外部の方にお願いしますが、そのほかの工事はすべて当社の職人が担当。そうすることで適正な価格を提案でき、お客様に本当に満足していただける仕事を提供できるのです」。

むろん同社は金額で勝負する会社ではなく、本当の強みはほかにある。例えば得意とするはつり工事は、重機を入れることができない狭い場所や騒音を立てられない場所などで、職人が手作業で行う。力が必要である反面、繊細な作業が求められることもあり、最も職人技を必要とする工事のひとつだ。

佐

々木氏はもともと料理人としてキャリアを積んでいたが、時間に不規則な生活を強いられていたことから、解体業の世界に飛び込んだ。約7年間にわたって複数の会社で修業を積んだ後に独立。若い職人を10人ほど雇って個人事業主となり、3年後にDSKを設立した。この業界では一人親方もいれば、職人がチームを組んで仕事をすることもある。法人であっても、

職人を正社員として雇用しない会社もある。DSKの特徴は、すべての職人を正社員として雇用し、固定給プラス報奨金という給与体系にしている点だ。

会

社を興して5年後には、社員が約60名まで増えるほど急成長。どんな仕事にも真摯に向き合い、従業員である職人とのアットホームな関係性も重視。社会人としてのモラルやマナー、礼儀を徹底的に指導してきた努力が実った形だ。現在は大手企業の2次受け企業として仕事を受注しているが、佐々木氏に対する信頼が新しい仕事を次々と呼び寄せている。

「真面目に仕事に取り組む毎日積み重ねた結果が、今につながっているのかなと思います。仕事は途切れずにいただけではない。職人全員が元気で飯を食べているのも、こうして会社を営んでいるのも日頃の積み重ねの賜物。突出した何かはなくて、まさに、継続は力なり。」

「一番というのは売上でも施工数でもなく、仕事の品質です。『はつりの腕はDSKが関東で一番いいよ』という評価を、たくさんのお客様からいただけたら光栄です。もちろん子供の代や孫の代、さらにその先まで、会社がずっと続く存在であってほしい。ただ一番大事なのは、1日の目標、目の前の目標を成し遂げること。それを繰り返していくことで、結果的に永続できる会社になるのではないかと思っています」。

「真面目に仕事に取り組む毎日積み重ねた結果が、今につながっているのかなと思います。仕事は途切れずにいただけではない。職人全員が元気で飯を食べているのも、こうして会社を営んでいるのも日頃の積み重ねの賜物。突出した何かはなくて、まさに、継続は力なり。」

「一番というのは売上でも施工数でもなく、仕事の品質です。『はつりの腕はDSKが関東で一番いいよ』という評価を、たくさんのお客様からいただけたら光栄です。もちろん子供の代や孫の代、さらにその先まで、会社がずっと続く存在であってほしい。ただ一番大事なのは、1日の目標、目の前の目標を成し遂げること。それを繰り返していくことで、結果的に永続できる会社になるのではないかと思っています」。

CHALLENGER

The Extra Edge

世の中のトレンドをリードする話題のモノ、ヒト、コトなどを紹介

佐々木雄太

SASAKI YUTA
株式会社DSK 代表取締役会長

1981年千葉県生まれ。調理師の専門学校を卒業後、料理人を経て解体業界へ転職。さまざまな会社でスキルアップや人脈づくりを図り、30歳で個人事業主として独立。2015年に株式会社DSKとして法人化し、総合解体業として解体工事やはつり工事、改修工事などを請け負う。